



2024年1月  
第745号

日本基督教団 平塚教会  
発行人 平塚教会  
編集人 中山洋司  
〒254-0045 平塚市見附町6-18  
電話 〇四六三(32)八八三一



# 信仰と社会

平塚教会牧師 北川一明

金銭の欲は、すべての悪の根です。

(Iテモテ六・10)

金持ちの財産は彼の砦／弱い人の貧乏は破滅

(箴言一〇・15)

お休みをいただいた日曜日、尊敬するK先生の説教を聞くことができました。アシジのフランチェスコに触れておられました。裕福な毛織物商の安逸な生活を捨てて托鉢の修道僧になった人です。説教を聞いて、己の来し方を振り返りました。

鎌倉周辺で過ごした高校時代「願はくは花の下にて春死なむ」と詠んだ西行法師の生き方に憧れました。大学でアシジのフランチェスコを知り、憧れの対象に加えしました。どちらも世俗を超えた絶対価値を求める生き方になりました。

大学卒業は『ジャパン・アズ・ナンバーワン』が出版

された、日本経済の絶頂期です。就職しなくとも一生喰うには困らないような空気感でした。托鉢放浪の誘惑に、半端な就職活動になりました。社会人生活も結局は半端で四年半しか続きませんでした。

信仰を得て入った神学校では「牧師になるとは、世俗社会の価値観を捨てる、いわば『出家』である」と教わりました。素直な私は真に受けてしまい、社会の制約を振り切るのが正しいことと喜びました。

「福音はつまずきである」と言われる(ガラテヤ五・11ほか)通り、福音にはたしかに社会の価値観と対立する面があります。それでも信仰生活と社会生活が両立しないと、教会は反社会的勢力になってしまいます。金のための暴力による反社ではありませんが、神のための信仰によるカルトです。しばしば「日本のキリスト教はよそ行きだ」と言われます。それは現代社会を批判する福音を聞かされた信徒が、信仰生活と平日の生活を別けなければならなくなったからかもしれません。

社会に組み込まれるとは、産業構造の中に組み入れられるということです。福音宣教が消費経済社会の枠組みの中で行われては、消費社会からの救いは実現しません。非社会的であることは、ある程度は必要です。ただ社会

## 目次

信仰と社会	牧師 北川一明 …1	2023年度地区信徒研修会	坪田裕美 …4
臨時総会にて	幼稚園理事会規則が承認される …3	編集後祈	…4

に組み込まれない教会はカルトです。福音が社会に広まるには、教会信仰の社会化も必要です。

フランチェスコは存命中、教会当局から多大な援助を受け、死後八〇〇年経った今もこうして取り上げられます。その点で社会的に大成功をおさめた「勝ち組」です。もっとも本人は成功しようとは考えていませんでした。熱狂的なキリスト教原理主義で、ただ自身の清貧を求めただけです。大勢の追随者が出たことで、結果的に勝ち組になったのです。

現世欲のないフランチェスコが社会的成功をおさめた理由は簡単です。当時のローマ教皇インノケンティウス三世をはじめとする教会当局の権力者たちが宣伝に利用し易かったからです。当局の権力がかわったことで、フランチェスコの働きは、本人の意図や望みとは無関係に社会化しました。聖書には「**口実であれ真実であれ、とにかくキリストが告げ知らされることを喜んでいきます**（フィリピ一・18）」という言葉があります。悪人たちの私利私欲のために、かえって素朴で純粋なキリスト教信仰が広まったことには、神のなさる業の不思議を感じさせられます。

M学院で学院牧師を務めたとき、社会化の必要性を思い知らされました。酸いも甘いもかみ分け古狸と呼ばれる学院院长に気に入られて入職しました。私の非社会的な部分も気に入られた点の一つのようでした。ところが大学という大きな組織の中では、組織構造の中で働かないと独り善がりの変人でしかありません。それではキリスト教の役にも立ちません。かといって私には組織社会でうまくやるスキルはありません。見かねた学院院长は、定年後雇用の職員さんを「学院院长室長」というあらたな立場で、私の上司に据えました。

学院院长直属から私を管理する人が出来たのですが、私が窮屈になることはありませんでした。室長は大学職員のトップまで務めた有能な方です。私のやりたいことを良く聞き取り、大学の中で据えるべき位置を備えてくださいました。「俺は相変わらず勝手なことをしているだけだな」と思いつつ、室長の方で私の企画が形になって行くのを見せてもらえました。

平塚教会に来て、社会の枠の中で成り立っているのを痛感させられるのは幼稚園

運営です。

教会は宗教法人として非課税です。有利な反面、社会から相手にされないことにもなりかねません。それに比べて幼稚園運営は、今や税金が財源です。お金がなければ良い教育スタッフをそろえることも出来ません。公金を使うには、教育内容には信仰、善意、愛よりも以前に公益性が必要です。財務管理を含む事務・労務管理は法令遵守が絶対条件です。

少子化対策で幼児教育には潤沢な援助があります。ただ少子化対策とあわせて女性活躍が目指される時代です。保育園は働く親が子どもを預ける場／幼稚園は余裕のある親が子どもに教育をほどこす場なので、税金の流れ行く先は幼稚園よりも保育園です。行政からお金を引き出す煩雑な事務処理の奥に、臍気に公社会というものが見えてきます。それとともに一般社会の圧倒的な大きさを思い知らされます。

平塚二葉幼稚園が高質の幼児教育を続けるには、日本の社会構造に組み入れられなければなりません。それでいて社会に取り込まれては教会幼稚園としての意味を失います。托鉢の修道僧は気楽だな…：チラとそんな気にさせられました。

# 臨時総会にて 幼稚園理事会規則が 承認される

12月3日 31名の教会員の出席を得て、臨時教会総会が開かれ、「宗教法入日本基督教団平塚教会規則・施行細則変更に関する件」が承認されました。

附属平塚二葉幼稚園は、平塚の地に開園して99年、次年度は100年を迎えようとしています。

平塚教会教会規則では、「第15条 附属平塚二葉幼稚園に理事9名をおき、教会総会において選挙する」となっています。しかし、いつの頃からかは不明ですが、教会総会で理事を選挙することもなく決定され、そのことが慣例となつて今日に至っていました。

理事会では、理事会の責務を明記した理事会規則等を探してみましたが見当たりません（開園当初に作成したか否かも不明）。ただ理事会に関する記載は、平塚教会規則第15条のみでした。

主によって建てられた平塚市で初めての附属平塚二葉幼稚園、しかし今の世は少子高齢化の時代、幼稚園経営にもその波は

ぐいぐいと押し寄せています。歴史の重みと未来への夢を持ちながら、この平塚の地に幼稚園教育の灯を永遠に燈し続けていかねばなりません。

そこで、平塚教会規則・細則の変更をお諮りし、理事会規則を提示し、附属平塚二葉幼稚園の発展を期すこととしました。なお、理事会規則内容のポイントを三点説明します。

## その一

### 理事会を幅広い人材で構成

理事定数を減らし、責任役員・学識経験者枠を設けて、時代の変化への即応と経営責任のある責任役員会との関係を密にしました。

#### 第3条 理事の選出。

- 1 主任担任教師
- 2 日本基督教団平塚教会附属平塚二葉幼稚園長（副園長及び園長代理者を置く場合は、この者とする） 1名
- 3 日本基督教団平塚教会責任役員 1名
- 4 教会員のうち理事会が推薦し、教会総会において承認された者 2名
- 5 学識経験者のうち理事会において選任した者 1名

## その二

### 理事会は運営、責任役員会は経営

理事会の業務は、予算・決算・人事・教育内容・方針・行事への参加・規則変更・諸問題と多岐に渡ります。しかし法律上、宗教法入では、付帯事業（幼稚園等）を含めて、全ての諸事業を責任役員会が決定することとなっております。しかし幼稚園は、日々の教育活動をしている為、素早い判断と対応が必要です。そのため、理事会は運営責任を、責任役員会は経営責任を担うことになりました。特に左記の（1）～（6）項目に関しては、責任役員会を経ての決定となります。

#### 第12条 理事会の職務（抜粋）

- 1 決算報告書・予算計画書の作成と承認
- 2 業務報告書・業務計画書の作成と承認
- 3 補正予算に関する変更計画と承認
- 4 幼稚園人事に関すること
- 5 幼稚園にかかわる重大な問題についての解決方法の対策
- 6 幼稚園の統廃合・名称変更・教育方針の大変換等についての検討

### その三

#### 重要な事項は教会総会の承認

日本基督教団では、教会総会を最高の議決機関としています。附属平塚二葉幼稚園でも、予算・決算・業務報告・業務計画・統廃合・教育方針の大変換・重大な問題等は、教会総会に諮り承認された後に進められます。この点については、従来と同じです。

理事会・責任役員会・教会総会(教会員)の三者が手を携えて、来年100周年を迎える附属平塚二葉幼稚園の未来を、永遠に支え発展していくことが出来ますようにと願っております。

## 2023年度地区信徒研修会

坪田裕美

夏の暑さがまだ残る去る11月19日(日)14時30分～16時30分、教団藤沢教会に於いて開かれました。

プログラムⅠは、開会礼拝。湯河原教会金子信一牧師、讃美歌21-365番、聖書新約聖書コリント第二の手紙5章10節、説教同じく金子信一牧師、祈祷で終了。

プログラムⅡは講演。講師として石丸昌彦先生(精神科医・放送大学教授)をお迎

えして、「祝福とライフサイクル」をテーマとして、お話を伺いました。

まず、テーマを大きく三つに分け(Ⅰ・祝福とライフサイクル。Ⅱ・ライフサイクルに織り込まれた祝福の諸相。Ⅲ・世代を超え世代を結ぶもの)、また、そのⅠⅡⅢがそれぞれ細分化して、Ⅰは、(a)今の場に備えられた祝福。(b)祝福について(C)ライフサイクルについてと、それぞれ説明をされた。Ⅱは、(A)誕生以前(玄冬)(B)誕生と成長(青春)(C)青年・壮年(朱夏)(d)老年の恵み(白秋)。Ⅲは、(ア)身体性・精神性・社会性・霊性(スピリチュアリティ)：健康と成長の第4の性。(イ)場の力【断酒会からデスカフェ迄(二～三人が集まる所)】。そして、最後に(ウ)シメオンの賛歌。

講演は、OHPを使用して行われ、Ⅱの誕生以前(玄冬)は、生命の発祥から自分まで/胎児の驚くべき能力/産声の軌跡とありますが、今まで当然と思っていた「産声」が、胎児から人として、呼吸する瞬間の声をOHPで説明を受けた時に、深い感動を覚えました。

約10分間の休憩後、約30分間茅ヶ崎教会田村博牧師の司会による質疑が行われ

た。二人の方が手を挙げ、一人の方はご家族の方が精神を病んでおられ、日常生活を切々と話された。柿の木坂教会の会員でおられる石丸昌彦先生は、講演の最初から笑みを絶やさず応答されておられた。閉会の祈り、大磯教会鈴木寛二牧師。藤沢教会の黒田直人牧師

はじめ教会員の皆様に参加に感謝。

参加

教会

17、

出席

者数

79

名。

平塚

教会か

らは9名

でした。

### 編集後祈

主のご降誕日にお届けしますことを感謝いたします。主の祝福と平和が全てのものに届きますように。(編集子)



竹と光のオブジェ (幼稚園100周年を記念して)